別添資料10

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表 2022年　3月　4日　　　　事業所名　キンダーハイム地域支援事業

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4		・広い部屋のため、隣に座る利用児同士の距離もとれている。 ・集中しやすい環境にしている。	・コロナ感染予防もあり机や椅子の間隔を広く取っているが、人数に対しかなり広い部屋を使用しているため、新しい遊び方を考え、広さを生かした過ごしができるように職員で話し合っていく。
	2	職員の配置数は適切である	4		・ひとり多く配置している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4		・トイレ入口の段差以外は平らな作りになっている。 ・大きな段差がほとんどなく、過ごしやすくなっている。	・トイレの段差について、現在の利用児や保護者には問題なくご利用いただけているが、今後利用する方の状況に応じて台を置くなどし、対応することは必要。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	4		・親子療育教室後、必ずその日の利用児の様子と職員の関わり方を振り返り、次の取り組み方について話し合っている。	・今後も職員間で話し合い、よりよい支援を行っていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4		・保護者学習会では気になっていることや知りたいことを保護者からうかがい、それをテーマにした学習会を実施した。	・懇談時に入れてほしい遊びをうかがったり、モニタリング書類の感想欄にご記入いただいたりし、利用児の状況に合わせ取り入れている。今後も、保護者の意向もうかがい改善に取り組む。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	2		・現在は行っていない。 ・職員への周知をはかる。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4		・事例報告会含め年10回程度の実習の実施+外部研修への参加。 ・研修は何度もあり、学びの場が多い。	・広く職員が研修を受けることができるよう、オンライン研修での参加も行った。今後もオンライン研修も含め、学びの場をつくっていけるよう、様々な種類の研修を職員に勧めていく。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4		・6か月毎に保護者にアセスメント表に記入していただき、懇談時に内容を保護者と確認している。 ・利用児の状況を把握し、スモールステップの目標を設定している。	・アセスメント表への記入と懇談から、保護者のニーズや利用児の課題を分析し、支援計画を作成している。今後も保護者のお話を丁寧にうかがい、利用児や保護者のニーズ把握に努める。

適切な支援の提供	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4		・保護者から提出されたこども相談センターや医療機関の発達検査の結果を参考にしている。	・k式発達検査が改編されたため、発達検査の内容や項目の意味を理解できるよう、臨床心理士に確認し、職員に伝えていく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4		・会議の場で複数人で確認している。	・色々なアイデアを職員みんなで出し合っていけるよう、話しやすい会議運営に努める。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4		・利用児の状況(課題、行事、体調など)に合わせたプログラムを考えている。	・設定遊びは重ならないよう、利用児の状況に合わせ計画している。これからも利用児が興味を持って参加できるような内容を、研修や本も参考にしながら企画していく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	3	1	・利用日は固定されているが、季節や行事前の体調などに合わせて設定し、支援している。	・入学後しばらくの間、また2学期開始頃は1年生にとって不安定になりやすい時期でもあるため、保護者から家庭での様子をうかがい、無理のない課題を設定する。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	4		・SSTの個別課題と集団で取り組む設定遊びを実施している。 ・バランスよく提供されている。	・今年度から始めた個別課題については、内容と利用児の理解度を振り返り、次年度の新たな利用児の状況に合った課題に変更する。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4		・日案をもとに確認している。	・利用児への関わり方や各職員の役割など、会議で確認しているため概ねスムーズに運営できているが、より個々の状況に応じた柔軟な関わりができるよう支援後の振り返りを丁寧に行っていく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4			・毎回支援の後には職員間で利用児の姿や対応の仕方などを振り返っているが、上記同様支援前の確認だけでなく柔軟に対応できるよう、さらに職員間で情報を共有し利用児の行動の意味やそれに応じた関わり方について検討していく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4		・日記録を毎日とっている。	・支援後の振り返りで共有した内容を日記録に入力することを、再度職員間で確認する。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4			・6か月毎のモニタリングをもとに支援計画の内容変更を検討しているが、定期のモニタリングだけでなく子どもの状況の変化に応じて柔軟に支援内容を変更する。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	4		・制作やリラックスできる活動、ルールのある遊び、個別課題などを組み合わせ、1日のスケジュールを立てている。	・利用児に学校での取り組み確認し、キンダーではゆったりできるような内容がよいか、あるいいは学校で習った漢字を書く場面を作った方がよいかなど、検討した上でその日の課題を考えることも必要。

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4		・児発管が参加している。	・今年度はコロナ感染予防もあり、サービス担当者会議は設定されなかったが、相談支援専門員とは電話で情報を共有することができた。今後対面での会議が設定された場合は積極的に参加していく。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	2	2	・コロナ感染予防もあり、学校に行くことはないが、必要に応じて保護者をはさんで取り組み方を伝えている。 ・保護者同伴のため、保護者から行事予定などうかがい、情報共有している。	・現在、保護者から学校の担任との情報共有についての要望はなく、職員と保護者とで話し合い必要に応じてその内容を学校の担任に伝えていただいたが、今後、保護者からの要望や利用児の状況に応じて学校とのやりとりを行う。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	1	・現在、利用されていないが、受け入れる場合は保護者から情報提供してただく。	・親子教室のため保護者から対応方法についてうかがい、必要に応じて主治医と連携する。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	2	・児童発達支援から続けて利用されているため、就学前に通っていた園や事業所での様子は把握できており、保護者の必要に応じてキンダーでの様子を園や他事業所にも伝えている。	・次年度も児童発達支援事業から移行されるケースであるため、就学前の状況は把握できている。児童発達支援事業での保護者からの聞き取りとその記録を放課後等デイサービス開始前に確認しておくことは必要。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	2	2	・現在、小学1年生のみの利用のため該当者がいないが以前は保護者の要望にあわせ、情報提供を行っていた。	
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3			・児童発達支援事業から利用されているケースであるため、これまでも連携している。引き続き助言を受けよい支援につなげていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		3		・コロナ感染予防もあり、実施していないが今後、状況を見て検討する。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	2		施設長、管理職が参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4		・親子療育であることから、話もしやすく共有できてる。	・自由遊びの時間での会話や定期懇談、要望に応じて随時懇談を行っている。利用児の参加の様子は保護者にその場で見ていただいているため共通理解をもちやすい状況であるが、必要に合わせ懇談ができることを保護者にお伝えする。

	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント･トレーニング等の支援を行っている	4		・保護者学習会を行い、話し合いや意見交換もできている。	・保護者の要望から保護者学習会のテーマを決めた。今後も基本の学習会と保護者のニードにあった学習会を行っていく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4		・契約時、変更時行っている	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4		・定期的な懇談と保護者の求めに応じて懇談を実施している。	・相談内容に合わせ、助言や支援を行い、内容によっては本の紹介か貸し出しも行っている。保護者に紹介できる本を今後増やしていくことは必要。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4		・父母の会はないが、自由遊びの時間を使い保護者同士で話せる場を作っている。 ・保護者学習会を通して行っている。	・児童発達支援事業から利用されているため、保護者同士自由にお話されたり、キンダー以外でも交流のある方もいる。今後も児童発達支援での交流ができる場を作るとともに、保護者学習会で保護者同士で悩みや考えを話せる場を作っていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4		・苦情はあまりないが、あった場合には対応する。	・要望については普段の保護者の方とのやりとりでうかがい、状況に合わせ取り組んでいる。苦情のような言いにくいことについては「ご意見箱」に入れていただけることを再度保護者にお伝えする
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4		・毎月のプログラム、年2回の季刊誌の発行。	・毎月のプログラム利用児が自分で読めるよう、全てひらがなでの表記としたことで予定を確認してから登園する利用児が増えた。これからも理解に合わせ」、読みやすい内容で作成する。
	35	個人情報に十分注意している	4			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4		・視覚支援を行っている。	・現在利用されているご家庭には、今使用している視覚支援グッズや掲示の仕方で意思疎通や情報伝達はできているが、今後新たに利用されるご家庭の状況に合わせ、掲示の仕方を変更したり視覚支援グッズを新しくしたりすることは必要。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	3	・人を招待する行事は行っていないが、コロナが広がる前は地域の祭りに参加してもらえるよう利用者への周知を行っていた。	・コロナ感染予防もあり地域住民を招待する企画は行っていないが、入館していただきやすい建物の作りになっている。どなたでも入れることから安全面の確保は必要。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4			
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4		・各グループ年2回程度実施。 ・外部に避難する際、何に注意してほしいかなど保護者にも話をしている。	・全ての利用児に避難訓練に参加していただけるよう前期、後期に分けて行っている。児童発達支援事業から継続して参加されている利用児ばかりのため、避難の仕方を覚えており落ち着いて取り組めた。これからも繰り返し訓練を行い、定着を図る。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4			・外部研修への参加と合わせ、内部では伝達研修を行っている。毎年研修を受けることで、職員の理解を深めるとともに自身の言動の振り返りにもつながっている。今後も継続して研修を行っていく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4			・契約時に、具体的な場面を想定しながら説明を行っている。また支援計画にも記載し、保護者には懇談で再度お伝えしているが、年度の始めにも再度保護者と確認を行う。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4		・コロナ感染予防から、クッキングは行っていないが食物アレルギーの有無については保護者に確認している。	・契約時と半年ごとのアセスメント表の確認の際に、アレルギーの有無については保護者にうかがっている。今後クッキングを行えるようになれば、改めて保護者にアレルギーの有無について確認し、必要に合わせ医師の指示に基づく対応をとる。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4			・ヒヤリハット事案があった場合、終礼等で伝えている。年度の始めに環境の見直しとともにヒヤリハット事案の振り返りを行う。